

## 2016 年度 A セメスター Intensive Japanese I (Group V) シラバス (松下分)

曜日時限：火曜 4 限、

教室：10 号館 201

対象：PEAK グループ V の学生（日本語母語もしくは準母語レベルの学生）のみ  
科目種別・単位数：必修・A1 タームのみ（金曜 1 限とあわせて週 2 回で）2 単位

\*本科目は、A1 タームの科目であり、火曜 2 限と金曜 1 限の週 2 回であるが、火曜と金曜はそれぞれ独立した内容で進める。成績は、出欠のみ火曜と金曜をあわせて計算するが、それ以外は別々に計算して、最後に半分ずつの割合で合算する。

担当教員：松下 達彦（まつした・たつひこ）

Eメール：\*\*\*\*\*

電話：03-\*\*\*\*\*（研究室直通） または 内線 \*\*\*\*\*

研究室：\*\*\*\*\*

研究室での面談・アドバイスを希望する場合：事前にアポイントメントを取ることが望ましい。  
（火曜、水曜、金曜の午後は研究室にすることが多いです。）

講義題目 (Subtitle)：日本語インテンシブ (Group V): 日本語の創作

### 授業の目標、概要 (Course Objectives/Overview)

本科目はグループVの学生（日本語母語もしくは準母語の学生）を対象とする。本科目（火曜 2 限）の目的は、学生自身が、非学術分野に於いて使用する、洗練された文芸的表現を身に着けること、を支援することである。

具体的には、学生と教員の所定の努力により、学期末までに以下の諸点が期待される。

- 1) より洗練された表現による日本語表現（手紙、広告、随筆、文芸作品など）の創作をすることができる。（例えば、気持ちのいい夏の朝を「素足でアスファルトの上を歩きたくなるような夏の朝」のように表現できるようになる。）
- 2) 表現することの楽しさを味わい、もっと表現したいという気持ちになる。

### 授業のキーワード (Keywords)

上級日本語、レトリック、文芸的表現、創作



授業計画 (Schedule)

授業日	主なトピック	提出物(全員)	発表等
9月27日	自己紹介、オリエンテーション、レトリックとは何か 人物描写文(1)		
10月4日	ポートフォリオの説明 人物描写文(1):合評・講義 手紙:講義	人物描写文(1)	提出物合評
10月11日	手紙:合評 随筆・エッセイ:講義 描写:ワークショップ	手紙(恩師への近況報告)	提出物合評
10月18日	随筆・エッセイ:合評 映画評、評論:講義 詩・広告:講義	随筆・エッセイ	提出物合評
10月25日	映画評・評論:合評 詩・広告:合評 ショートストーリー:講義	映画評・評論 詩・広告	提出物合評
11月1日	ショートストーリー:合評 私の好きな表現(発表:一人10分以内)	ショートストーリー ポートフォリオ(*教室に持参)	提出物合評 発表
11月15日	人物紹介文(2):合評 ポートフォリオ返却、作品集配付、まとめ	人物描写文(2)	

提出物はMS-Wordのファイルまたは手書き。サイズはいずれもA4版とする。

提出物の提出期限:(特に指定がない場合は)授業前日(月曜)の午後7時

提出場所:ITC-LMS(MS-Wordのファイル)または松下研究室の入り口のボックス(手書き)

授業の方法 (Teaching Methods)

手紙、随筆・エッセイ、ショートストーリー、詩・広告、人物紹介文などの創作活動を行い、討議・合評を行なう。

ポートフォリオを作成することも必須の課題である。ポートフォリオには、必須の課題である発表や文章表現の作品の代表的なプロダクト(成果物)を時系列の順番に納める。これは各自の学習の進歩や成果を振り返ること、また他者にわかりやすく示すことを目的に作成するものである。日本語科目では必須の課題をBaselineと呼び、任意の課題をExtensionと呼ぶが、ポートフォリオにはその両方のプロダクトを入れることができる。Extensionでは当該科目に関連する課題を自ら設定して取り組むことができるが、詳細は授業内で説明する。

## A) 学生に要求されること

- 🚩 指定された文献を読んで授業に参加し、不明点を授業で確認すること
- 🚩 課題(口頭発表や提出物)に取り組み、提出し、クラスメートや教員からのフィードバックを批判的に受容すること
- 🚩 提出物の合評など、議論に積極的に参加すること

## B) 担当教員の行なうこと

- 提示された授業時間において、クラスの運営を適切に管理し、ここに示した計画の通り授業を進めること。変更は、合理的かつ明確な理由を提示し、学生の了解を経た上で行うこと。

- 個々の学生のニーズとレディネス・学習環境に応じ、学習に関する適切なアドバイスや学習リソース提供を行うこと。
  - 事前に読むべき文献を提示すること。
  - 各トピックについて、簡単な講義やワークショップを行なうこと。
  - 必要に応じて作成例を含めた課題の模範を示すこと。
  - 議論の内容に適切なアドバイスやコメントを与えること。
  - 提出物をよりよい日本語表現になるように添削し、内容についてもコメントすること。
  - 目標の達成度を、適切な基準によって評価し、各学生にフィードバックすること。
  - 作品集を編集して学期末に配布すること。

授業目標を達成するためには、上記AとBについて、学生と教員が所定の努力をすることが必要である。

### 成績評価方法 (Method of Evaluation)

以下の諸点に基づき評価する。(Baselineは必須課題を、Extensionは任意課題を指す。各項目のより詳しい評価基準については別紙参照。)

1) クラス内での活動	10%
2) 提出物 7件 (Baseline)	70%
3) 発表 (「私の好きな表現」)	10%
4) 任意課題 (Extension)	5%
5) ポートフォリオ (Baseline + Extension)	5%



\*出席が70% (13回中10回) に満たない場合は自動的に F (不可=不合格) となる。30分未満の遅刻・早退は3回で欠席1回と計算される。30分以上の遅刻・早退は欠席とする。

\*提出物は原則として提出期限を過ぎたら受け取らない。(理由があつて間に合わない場合は事前の相談により期限の延長が認められる場合がある。ただし、期限が延長された場合、同じ基準で評価することを保証しない。)

### 不正行為の禁止

試験におけるカンニング、提出課題における他者の著作の盗用などの不正行為は固く禁じられている。提出課題は必ず学生自身のオリジナルでなければならない。他者の著作を引用する場合は、引用の範囲または内容と、出典が明示されていなければならない。カンニングや盗用が証明された場合には、大学の規定により、当該学期のすべての科目の成績が自動的に「不可」(F)となる。

### 教科書・参考文献 (Textbook and Reference)

教科書は指定しない。その他の文献は必要に応じて授業内で指示する。

関連ホームページ (Course-Related Websites) 特にないが、必要に応じて授業内で指示する。情報提供歓迎。

### 学習上のアドバイス (Advice for Prospective Students)

芸術とは何か、科学とは何か、について考えよう。考えることや発想すること、表現することを楽しもう。日常生活の中で「あれっ」と思うような表現、引っ掛かりを感じるような表現に敏感になろう。

以上